

作を採り、少許の畑作と水田裏作に僅かに蔬菜作をなし、また自給飼料の補足關係をよくするために飼料を作つてゐる。直接的土地利用生産が斯くの如くであるから、經營の多面化の要が大である譯であるが、飼料事情は養畜規模の擴大を困

耕地利用状況

地目	反別	作物	作物反別	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12												備考			
				上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下					
水田 (三四〇二反)	17.112	水	稻	17.112															
		水	稻	16.900															
		水	紫雲英	13.400															
		水	大	1.000															
		水	稗	1.300															
		水	馬鈴薯	0.500															
		水	大根菜	0.700															
		水	大豆	(0.900)															
		水	小豆	(0.800)															
		水	總	0.100															
		水	茄子	0.300															
		水	馬鈴薯	0.100															
水	芋	0.315																	
水	瓜	0.305																	
水	白	0.310																	
水	大	0.220																	
水	其他	0.102																	
普通田 (一四三反)																			

難ならしめるが故に多少の飼料作をなし、また飼畜形態の多角化をも行つて可及的に養畜生産を擴大すると共に冬期勞働力利用の爲には糞加工をもなしてゐる。養畜規模擴大の經過は既述せるが如くであるが、冬期の勞働力利用の製繩は稻調

製の爲に設置せる電動機(四分の一馬力)を利用し、二臺の製繩機を備へて玉繩の製造をなすものである。尙ほ將來に於ては堆肥舎の設置と、精米とを計畫して居り、精米は前記の電動機を利用して餘剩勞働力の利用と米糠により飼料の自給を圖らんとするものである。

(イ) 耕種(直接的土地利用生産)

本經營は就中其の自然的條件即ち經營土地及び氣候條件からして土地利用生産の多面化をなし難い事情にある。極力水田裏作の増加を企圖し、研究してゐるが、尙ほ夫れは大體に於て地力維持作目たる綠肥紫雲英作の域を脱し得ないものである。蔬菜作、飼料作をも少許行つてはゐるが、未だ以て土地利用の多面化の要求を充たすに充分なものではないのである。即ち水田三四反には表稻作に二毛作可能なものに紫雲英一三・四反、大麥一反、稗麥一・三反、馬鈴薯、大根、蕪、菜等一・二反を栽培するに過ぎず、普通畑には自家用蔬菜類と養鶏用綠餌が栽培せられるに過ぎないのである。斯くして土地利用度は耕地反別三五・五反に對し延作付反別五二・八反の一・五倍、生産價額は三、三五九圓で耕地反當九五圓である。併し夫れでも共進會出品二二農家平均の生産價額二、三二九圓、耕地反當九二圓に比較すれば高いのである。

種目	作付反別	收量	價額	販賣		仕向		未處分及増殖	經營内部仕向
				石	圓	石	圓		
水	米	17.112	101.10	11.813	1,194.33	3.77	353.73	—	—
		16.900	4.26	6.10	—	0.26	13.10	—	51.00(飼料)
稻	批	—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—	—
粟	殼	—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—	—

種	類	計(耕種)	年度始		年度末		摘要
			數量	價額	數量	價額	
麥	大	1,000	1.5	15.00	1.5	15.00	8.75(飼料)
麥	中	1,300	1.2	15.60	1.2	15.60	14.76(飼料)
麥	小	1,000	1.0	10.00	1.0	10.00	3.28(材料)
雜	豆(畦)	0.900	1.5	13.50	1.5	13.50	3.20(飼料)
雜	豆(畦)	0.800	0.9	7.20	0.9	7.20	—
穀	莢	0.600	0.9	7.20	0.9	7.20	1.30(飼料)
馬	鈴	0.600	1.0	6.00	1.0	6.00	1.10(飼料)
大	生	0.400	1.0	4.00	1.0	4.00	1.10(飼料)
根	乾	0.500	1.0	5.00	1.0	5.00	1.00(飼料)
白	菜	0.500	1.0	5.00	1.0	5.00	1.60(飼料)
其他	蔬菜	1.400	1.0	14.00	1.0	14.00	3.50(飼料)
梅、柿、櫻桃		1.300	1.0	13.00	1.0	13.00	—
紫	生	3,000	3.0	30.00	3.0	30.00	—
雲	生	1,000	0.7	7.00	0.7	7.00	—
英	乾	1,000	0.7	7.00	0.7	7.00	—
計	子	5,800	3,360	33,680	3,360	33,680	—

(口) 畜産(家畜を通しての有機技術的加工生産)
 (1) 飼養家畜

本經營は經營規模が相當に大きく、氣候條件からして稻作、其他適期に作付け得るやう準備することが特に要求せられる。何故なれば寒冷期が長く夏季が短いこの地方では作付期間が比較的短く、その適期を逸すれば收穫を著しく減少せしめ、或は冷害の危険にさらすこととなるからである。之を以て役畜の飼養は不可欠である。馬を先代から飼養せることはこの間の事情を物語る。之に對し用畜は經營の多面化により其の安全を圖り、家族勞働力の利用配分をよくするために必要であるにも拘らず飼料事情が之を許容し難い。故に於て裏作等に飼料作を強行し、或は紫雲英、野草の乾草を作る事を勵行する等によつて之を可能ならしむ可く努力してゐる。牛、豚、養鶏等近年に至つて採り入れてゐるのは斯かる事情からであらう。牛は役、蕃に供用し、豚は三頭を肥育して年一回更新賣却する。養鶏は採卵養鶏で一五〇羽以上を保持出来るやう春雛一〇〇羽を入れて育雛更新するものである。

(2) 畜産設備

種別	種類	用途	性質	年度始		年度末	
				數量	價額	數量	價額
牛	改良和種	農耕	牝	1	1.4	1	1.4
馬	雜種	農耕	牝	1	2.0	1	2.0
豚	ヨークシャー	肥育	牝	3	6.0	3	6.0
鶏	白レダ	採卵	牝	15	3.0	15	3.0

種目	棟数	坪数	構造	現在價	銷却額	設置年	設立經費	摘	要
厩舎	二	六・三	木造	二〇・〇〇	五・〇〇	大正七年	二〇〇・〇〇		
厩舎	一	三・〇	藁葺コンクリート床	四〇・〇〇	二・〇〇	昭和十一年	四〇〇・〇〇		
鶏舎	一	三・〇	木造	二四・〇〇	六・〇〇	大正七年	三〇〇・〇〇		
飼料庫	一	二・〇	木造	二〇・〇〇	一・〇〇	大正七年	四〇〇・〇〇		
堆積場	一	八・〇	無蓋コンクリート	八〇・〇〇	二・〇〇	昭和十二年	八〇〇・〇〇		
運動場	二	一六・〇		三〇・〇〇		大正七年	三〇〇・〇〇		
畜力利用具				五・〇〇	八・〇〇				
飼養管理具				四・〇〇	三・〇〇				

(3) 生産

種目	数量	價額	販賣	家用	仕向	未處分及増殖	經營内部仕向
豚 厩	二〇〇	一・八八					一・八八(肥料)
豚 増	三、二〇〇	七・六四					三、二〇〇(肥料)
馬 厩	六	七三・二四					六・六(畜役)
馬 増	六	七三・二四					六・六(畜役)
牛 厩	一	三〇・〇〇					三〇・〇(肥料)
牛 増	一	九〇・八〇					九〇・八(肥料)
牛 厩	一	二四・五七					二四・五(畜役)
牛 増	一	一八・二二					一八・二(畜役)
牛 厩	一	四、〇〇〇					四、〇〇〇(肥料)
牛 増	一	九〇・七九					九〇・七(肥料)
鶏 厩	三	三三・八四					一六・三(畜役)
鶏 増	三	三三・八四					一六・三(畜役)
鶏 厩	三	三三・八四					一六・三(畜役)
鶏 増	三	三三・八四					一六・三(畜役)

(八) 農産加工(無機技術的加工生産) 其他

種目	数量	價額	販賣	家用	仕向	未處分及増殖	經營内部仕向
鶏 糞	七〇三	九二・四〇					七〇三(肥料)
鶏 卵	三、四〇〇	六八・八八					三、四〇〇(肥料)
繩	一、五〇〇	一七・七〇					一、五〇〇(材料)
俵	八〇三	四一・〇八					八〇三(材料)
棧	五八四	五・八四					五・八四(材料)
草鞋、草履	一六	四・八〇					四・八(農具)
米 糠	三、八五	一一・五五					三、八五(飼料)
野 草	七	一〇・〇五					七(飼料)
野 草	五、二〇〇	九・九一					五、二〇〇(飼料)
野 草	二、五	三三・〇一					二、五(飼料)
人糞尿(汲取)	一、〇〇〇	一三・〇〇					一、〇〇〇(肥料)
計(農産)		五七・八四					三三・七・九

備考 人糞尿は高田市から無料汲取のものであるが、茲に假に其の報酬をなすものとして掲ぐ。

水田地帯に於ては一般に、就中北陸、東北の水田地帯に於ては更に冬期に農作業が出来なくなる事情が加つて、我が國に於て家畜の基礎飼料の基本をなす稲藁が製繩其他の農産加工に供用せられることが大である。之は就中其他の、稲藁と時期的補足關係にたつ基礎飼料が得られ難い關係から稲藁の飼料としての利用が低いことに基づくものであつて、其の補足關係に於ける稲藁の存在量が過多なるためである。或は反對に補足關係になければならない其他の飼料が量的比率に於て過少なためである。北陸や東北に於ては更に冬期労働力の價値付けと云ふ事情が之に加はる。稲藁を飼料に供す可きか、或は又加工に廻す可きかは其の何れに於ける利用が大であるかによつて決せられる。生産物の利用用途は其の總利用が最も大なるやうに決せらる可きであるからである。利用價値の如何により或る場合には全く一方に向けられ、或場合にはこの兩方向に分割せられることは云ふ迄もないことである。本經營にあつては裏作麥を飼料とする外少許の飼料作もなされる等自給飼料の補足關係を良くすることに努めてはゐるが三四反に及ぶ稲藁であるから略ぼ折半されて半ばは加工に供せられてゐる譯である。飼料の補足關係が問題たることは精米を行つて米糠を得んとする計畫の裡にも認めることが出来るであらう。

四、養畜部門の經營經濟的機能

(1) 肥料經濟に對する機能

本經營の經營土地は水田を主とし、しかも二毛田は少く、二毛作田も亦氣候條件の關係で収益作物の栽培が困難であつて、大部分は綠肥紫雲英作が行はれる。換言すれば土地利用が集約的ならず、地力維持の爲に綠肥作が行はれるのである。加之市尿汲取の便がある。此意味では厩肥等の價値は比較的に小さいものと認めなければならぬが、併し相當に大きい經營であるから肥料自求の必要は決して少くなるものではない。本經營の實際に就て見るに敷藁の多給によつて厩

肥の増産を圖つてゐるのであつて、肥料費七四一圓のうち五六八圓(七七%)を自給し、厩肥等は三四九圓で四七%を占めてゐる。共進會出品二農家平均の肥料費三六九圓、そのうち購入一二二圓(三三%)、自給二四七圓(六七%)に比し自給率は高く、耕地反當に計算すれば本經營は購入肥料四・八七圓、自給肥料一六・〇一圓で計二〇・八八圓であつて、共進會出品二農家平均では購入肥料四・八五圓、自給肥料九・七七圓で計一四・六三圓である。

種、目	稻作(三四・〇反)		麥、蔬菜等(五・四反)		計(肥)	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
厩肥	一〇、三二〇	二三四・三三	八八〇	一九・九〇	一一、二〇〇	二五四・二三
豚尿	—	—	二〇〇	一・八八	二〇〇	一・八八
鶏糞	六八〇	八九・三八	二三	三・〇二	七〇三	九二・四〇
紫雲英	三、二〇〇	四五・一二	—	—	三、二〇〇	四五・一二
人糞	一三、七八〇	一五九・八四	七六〇	八・八一	一四、五四〇	一六八・六五
草木灰	五〇	三・七三	三〇	二・二四	八〇	五・九七
計(自給)		五三二・四〇		三五・八五		五六八・二五
購入肥料						
硫酸安	一〇	三・四〇	—	—	一〇	三・四〇
石灰窒素	六〇	一九・二〇	—	—	六〇	一九・二〇
過磷酸石灰	一九〇	三〇・八七	二〇	三・六〇	二一〇	三四・四七
					三九三	

磷酸アルミナ	二〇〇	三一・八〇	—	—	—	二〇〇	三一・八〇
鹽化加里	一〇〇	五八・〇〇	—	—	—	一〇〇	五八・〇〇
配合肥料	二〇	七・四〇	二〇	六・〇〇	—	四〇	一三・四〇
石灰	三〇〇	一〇・五〇	六〇	二・二二	—	三六〇	一・二七二
計(購入)		一六一・一七		一一・八二			一七二・九九
計(肥料)		六九三・五七		四七・六七			七四一・二四
自給割合		七六・八		七五・二			七六・七
購入割合		二三・二		二四・八			二三・二

(2) 利用經濟に對する機能

耕種生産に隨伴する副産物の利用を高めることは生産物の總利用を高める所以であり、其の利用方法を忽がせにしてはならない。本經營の實情よりするときに稻藁、野草等家畜の基礎飼料となし得可きものは豊富に存するが、一つには耕種生産が稲作に偏向してゐる關係から夫れ等基礎飼料の補足關係が良くないことから、二つには冬期の勞働力利用の爲に加工の如きを採り入れる必要が大なることから稻藁は略ぼ折半されて其の半ばが養畜部門に仕向けられる。養畜生産に仕向けて之を利用すれば加工の目的が達せられるのみでなく、夫れ等に包有せられる肥料價値が厩肥等としてより増進されて經營に復歸するが故に養畜生産は農産加工に存せざる費用節減の間接的效果をもたらすものであるが、飼料の補足關係が餘りよくゆかないことが全部的に養畜に仕向けることを許さないものである。飼料作其他によつてこの補足關係をよくすることが困難な事情にあるからである。之に處して本經營は裏作に麥、其他主として根作物を栽培し

て夫れ等を飼料に供し、或は乾燥貯藏して時期的配分をよくする等努力してゐるが、尙ほ養畜規模の擴大を思ふやうに實現せしめない原因の一は實に茲に存する。家畜の飼糧基礎は濃厚飼料の購入補足によつて擴大し得るが、併し自給飼料の補足關係が悪ければ、濃厚飼料の購入補足を大ならしめるからである。飼料自給の努力にも拘らず、自給率の低いのは斯かる事情に基づく。即ち本經營の飼料費を見るに飼料費九五・一圓のうち自給三五・七圓(三八%)、購入五九・五圓(六二%)であつて、共進會出品二二農家平均の飼料費三七・八圓、うち自給二〇・八圓(五五%)、購入一七・〇圓(四五%)に比し自給率は相當に低いのである。

種目	牛用		馬用		豚用		鶏用		計(飼料)	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
野生草	一、二〇〇	三三・三〇	三、三〇〇	五八・六一	—	—	—	—	五、二〇〇	九一・九二
野乾草	全	八・八一	一四〇	一五・一〇	—	—	—	—	二、三三	三三・〇一
稻藁	八〇〇	三三・二二	一、〇〇〇	三三・四〇	六三〇	一九・六六	一五〇	五・七二	二、五八〇	八二・〇一
紫雲英(生)	六〇	〇・八四	—	—	—	—	—	—	六〇	〇・八四
紫雲英(乾)	四〇	四・三三	—	—	—	—	—	—	四〇	四・三三
豆莢莖	八	〇・五〇	三〇	〇・八四	—	—	—	—	四〇	一・三四
馬鈴薯	—	—	—	—	三	七・一〇	—	—	三	七・一〇
大根	—	—	七	〇・九二	三	一・九一	—	—	三〇	三・八二
蔬菜屑	—	—	—	—	—	—	三	一〇・二〇	三	一〇・二〇
計										

計(購入)	購入飼料												計(自給)					
	米糠	大豆粕	大豆	大麦	批麥	芽才	配合飼料	魚粉	貝殼	米	大豆	稈麥		大麥	大麥	層米	批米	米糠
一九五三																		三八七
三九三二																		二六五九
五九四二																		一〇〇・四三
四七六・二八																		一〇〇・四三
五九四・三二																		一〇〇・四三

(3) 労働経済に対する機能

本経営は稲作に偏向するが故に養畜の経営労働均等化機能は極めて重要である。作付期の短いこの地方にあつてはこの労働所要の最大なる時期に畜役が要求せられること云ふ迄もない。また農閑期の労働力利用のために之が消化方法が要求せられることも多言を要しない所であつて、養畜は農産加工と共にこの任務を擔當してゐるのである。之を明かならしめる爲に農業労働分配状況を示せば次の如くである。

農業労働分配状況

種目	月別												年計	割合				
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月						
計(飼料)	一〇八・三六	一七六・五三	一八〇・〇〇	一七六・五三														
自給割合	八二・〇%	七六・〇%																
購入割合	一八・〇%	二四・〇%																
計(實數)	八四・七	一三三・二																
割合	五・九%	九・二%	八・五%	六・六%	八・九%	八・七%	七・五%	二・六%	九・九%	一四・〇%	一〇・八%	七・四%	一〇・〇%	一〇・〇%	一〇・〇%	一〇・〇%	一〇・〇%	一〇・〇%

本経営は稲作に偏向するが故に現金収益の機会に乏しい。この間にあつて用畜の飼養は其の機会を増大せしめ、経営の運営を圓滑ならしめてゐる。即ち現金收支状況を示せば次の如くである。

年 計	現 金 収 入		現 金 支 出		差 引 (純收入)
	額	割合	額	割合	
一 月	1,795.33	35.91%	1,197.64	35.91%	597.69
二 月	492.56	98.51%	1,564.00	47.82%	-1,071.44
三 月	334.16	66.83%	3,311.11	97.73%	-2,976.95
四 月	330.30	66.06%	3,032.55	89.78%	-2,702.25
五 月	210.70	42.14%	2,698.88	79.96%	-2,488.18
六 月	210.70	42.14%	2,698.88	79.96%	-2,488.18
七 月	210.70	42.14%	2,698.88	79.96%	-2,488.18
八 月	210.70	42.14%	2,698.88	79.96%	-2,488.18
九 月	210.70	42.14%	2,698.88	79.96%	-2,488.18
一 〇 月	210.70	42.14%	2,698.88	79.96%	-2,488.18
一 一 月	210.70	42.14%	2,698.88	79.96%	-2,488.18
一 二 月	210.70	42.14%	2,698.88	79.96%	-2,488.18
年 計	1,795.33	35.91%	1,197.64	35.91%	597.69

五、經營の成果

(1) 農業租收益

本經營にあつては養畜生産や農産加工を採り入れて經營を多面化する必要が極めて大なるものがある。さうでなけれ

ば家族労働力の利用配分が合理的ならず、また組織間の共同關係が殆どなくなつて經營の危険の増大と費用の遞増を來すのである。夫れは經營が一方に偏向するが故である。茲に本經營が養畜規模の擴大を着々計畫實行し來つた理由が存するものであつて、この生産の多面化と高度化によつて租收益の増大を結果してゐるのである。即ち租收益は次表に示すが如くであつて他の農家に於けるよりも高い。之を明かならしめる爲に共進會出品二二農家平均の耕地反當生産價額と本經營の夫れを比較すれば前者の一三二圓に對し、後者は一四九圓である。

種 目	現金所得的收入		家計仕向		未處分及増殖		計(農業租收益)		經營内部仕向		計(生産價額)	
	價額	割合	價額	割合	價額	割合	價額	割合	價額	割合	價額	割合
稻作	1,795.33	35.91%	366.93	66.6%	—	—	2,162.26	70.0%	330.11	18.5%	3,000.00	57.9%
麥及雜穀	334.16	66.83%	193.33	34.4%	—	—	526.66	1.3%	40.68	3.3%	94.02	1.8%
蔬菜	192.70	38.54%	77.53	13.6%	—	—	115.17	2.4%	33.70	2.7%	130.87	2.5%
其他	210.70	42.14%	5.33	0.9%	—	—	8.33	0.2%	64.94	5.3%	73.27	1.4%
計	2,532.89	100.0%	743.19	29.3%	—	—	2,790.00	110.1%	434.76	17.1%	3,224.76	127.3%
畜産	699.86	27.6%	87.66	12.5%	97.50	14.1%	185.16	26.5%	534.30	73.5%	719.46	100.0%
加工其他	168.40	6.6%	1.50	0.2%	—	—	1.50	0.0%	37.89	2.3%	39.39	5.5%
計	3,377.89	100.0%	568.11	16.8%	97.50	28.7%	1,034.80	30.6%	1,111.55	33.2%	1,553.31	46.6%
割合	63.9%		10.7%		1.9%		76.5%		33.5%		100.0%	

(2) 農業經營費

本經營は既述せるが如く組織的に經營を改善し、費用の低減に努めてゐるが、經營條件の諸制約は充分に之を實現せ

しめない状態にある。經營費の構成を示せば次表の如くであつて農業經營費は一、八五五圓、之に經營内部自給を加へて費用價額は三、〇九六圓である。耕地反當の費用價額八七圓、共進會出品二農家の夫れの六六圓に對し、稍々多くなつてゐる。併し本經營の經營費中には六六三圓に及ぶ小作料が含まれてゐるから、之を考慮すれば決して普通農家に於けるよりも多いものではないであらう。

種目	現金所得的支出		減價銷却		計(農業經營費)		經營内部仕受		計(費用價額)	
	價額	割合	價額	割合	價額	割合	價額	割合	價額	割合
肥料	一七三・九	九・八%	—	—	一七三・九	九・三%	五五六・〇	四・八%	七九・〇	三・五%
飼料	五九四・五	三三・八%	—	—	五九四・五	三三・二%	三五六・九	二・八%	九五一・九	三〇・七%
用畜	二七・五	一・六%	二〇・〇	—	四七・五	二・五%	—	—	四七・五	一・五%
種苗	二六・六	一・五%	—	—	二六・六	一・四%	—	—	二六・六	一・一%
加工原料	一五・〇	〇・九%	—	—	一五・〇	〇・八%	六四・六	〇・九%	九〇・六	二・六%
光熱	三三・〇	一・八%	—	—	三三・〇	一・七%	—	—	三三・〇	一・〇%
藥劑	七・五	〇・四%	—	—	七・五	〇・四%	—	—	七・五	〇・二%
諸材料	一三・四	〇・八%	—	—	一三・四	〇・七%	—	—	一三・四	〇・四%
雇傭勞銀	二〇・四	一・一%	—	—	二〇・四	一・一%	—	—	二〇・四	〇・七%
畜役	—	—	—	—	—	—	一八五・六	一・五%	一八五・六	六・〇%
農具	五八・六	三・三%	—	—	五八・六	三・一%	—	—	五八・六	二・〇%
建物	六二・三	三・三%	—	—	六二・三	三・一%	—	—	六二・三	二・一%
計	一、七四〇・六	一〇〇・〇%	九四・八	—	一、八三五・四	一〇〇・〇%	一、二四一・五	—	三、〇六六・九	一〇〇・〇%
割合	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(3) 農業純収益	
現金所得的収入	三、三七・九
現金所得的支出	一、七〇・元
現金所得的純収入	一、六七・五
農業粗収益	四、〇三・八
農業經營費	一、八五四・六
農業純収益	二、一八八・九
生産價額	五、二八五・三
費用價額	三、〇九六・元
純収益	二、一八八・九
小作料	(六六三・五〇)
租税公課	二七・九
計實數	一、七四〇・六
計割合	一〇〇・〇

經營の純成果たる農業純収益即ち農業所得は右の如く二、一八九圓であつてそのうち一、六一八圓が現金所得である。農業純収益二、一八九圓は之を耕地反當に計算して六二圓、家族農業勞働一日當に計算して一・五一圓に當る。共進會出品二農家の平均にあつては、農業純収益一、六三九圓、耕地反當六五圓、家族農業勞働一日當一・八三圓であるから、本經營の成果は稍劣るが如くに見える。併し本經營は經營耕地の過半を小作し六六〇圓に及ぶ小作料を支拂つてゐるのであるから、之を考慮すれば決して優るとも劣るものではない。

(4) 經營成果の吟味

(イ) 農業勞働報酬

農業純収益	農業資本 利子見積額	(差引) 家族農業勞働報酬
二、一八八・九四	三五九・八〇	總額 一、八二九・一四
		勞働日數 一、四四六・一
		一日當報酬 一・二七

1421
959

十中四第

昭和十五年九月二十日印刷
昭和十五年九月二十五日發行

農林省畜産局

印刷者 小松代浩三
東京市京橋區木挽町一丁目廿一番地
印刷所 特急印刷社
東京市京橋區木挽町一丁目廿一番地
電話京橋66一八八〇番

(3) 養畜部門所得、純収益及び企業利潤

養畜部門所得	養畜部門粗所得	養畜部門粗收益	養畜部門經營費	養畜部門純收益	養畜生產價額	養畜生產費用價額	養畜生產企業利潤(一)
八七四・三	八七四・三	一、四〇八・四	一、〇三三・〇	三三六・四	一、四〇八・四	一、四〇八・四	一九九・〇
六五・三	六五・三	一、〇三三・〇	一、〇三三・〇	三三六・四	一、四〇八・四	一、四〇八・四	一九九・〇
一七九・二	一七九・二	三三六・四	三三六・四	三三六・四	一、四〇八・四	一、四〇八・四	一九九・〇
六九五・一三	六九五・一三	一、〇七二・一〇	一、〇七二・一〇	三五六・二四	一、四二八・三四	一、四二八・三四	三〇〇・六〇
四・五〇	四・五〇	四・五〇	四・五〇	四・五〇	四・五〇	四・五〇	四・五〇
三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇	三・〇〇
一六・〇〇	一六・〇〇	一六・〇〇	一六・〇〇	一六・〇〇	一六・〇〇	一六・〇〇	一六・〇〇
六・〇〇	六・〇〇	六・〇〇	六・〇〇	六・〇〇	六・〇〇	六・〇〇	六・〇〇
一一・〇〇	一一・〇〇	一一・〇〇	一一・〇〇	一一・〇〇	一一・〇〇	一一・〇〇	一一・〇〇
四〇四	四〇四	四〇四	四〇四	四〇四	四〇四	四〇四	四〇四

計(養畜費用) 六九五・一三 三七六・九七 一、〇七二・一〇 三五六・二四 一、四二八・三四
 備考 資本用役は敷地運動場等一〇〇圓、建物四九二圓、畜具九七圓、家畜七〇二圓、計一、三九一圓に對し四分を、家族労働は一日一・二〇圓を計上せり。

經營の一構成部門として有機的結合關係に於てある養畜部門を今假に切斷分離して計算すれば右の如くである。即ち養畜部門所得は一七九圓、養畜部門純収益は三三六圓、而して養畜生産は其の生産費用を償ひ得なかつた。其の意味する所は間接的な經營經濟的機能を一應問はざる事として、養畜生産によつては普通並の利子及び労働報酬をあげ得なかつたと云ふことである。併しその額は僅少にすぎず、且又既述せるが如き間接的機能を考慮すれば夫れを以て直ちに本經營の養畜生産が規模及び經營に於て當を得なかつたと斷定することは出来ないのである。(昭和十二年度調査)

14.2
959

終